

第8回銚子支部大会開かる

銚子支部第八回定期大会は、一月二十五日十五時より、市内宮崎旅館において、組合員五五名中五五名（委任状二〇）が結集し開催された。大会は、越川副支部長の開会挨拶のあと、加瀬利夫君を議長に選出し議事が進められた。

「六三・三」を絶好の機会に 強制配転者奪還の闘いを強化しよう

支部を代表して挨拶に立った錦織支部長は、「本第八回定期大会を期して、更なる闘いに前進しよう。原職奪還の闘いは、裁判闘争、激励行動、街宣、集会等、あらゆる闘いに積極的に対応し、何としても職場復帰を勝ちとる。とりわけ、駅強制配転者については、『六三・三ダイ改』における要員増を絶好の機会として、復帰に全力で取り組む。強制出向に関しては、ストを辞さない闘いに決起し粉砕する。銚子支部は、全組合員の団結をもって、職場闘争を中心に、解雇者、清算事業団、強制配転者の原職奪還、財政基盤の確立を勝ちとり、強制出向を粉砕しよう」と訴えた。続いて、来賓として本部中野委員長より、

◎各支部は、定期大会で執行部体制の確立に成功した。

◎動労千葉十一番目の支部として、いすみ鉄道支部の結成を勝ちとった。

当局側取り扱いミスによる 事故等の責任追及を！

鈴木書記長より、一般経過報告および運動方針案の提起、川越財政部長より、会計報告および予算案の提起、坂尾会計監査委員代理より、会計監査報告を受け質疑にはいった。質疑では、「六三・三ダイ改」における要員増の問題、当局側の取り扱いミスによる事故等の責任性、解雇者・清算事業団・強制配転者奪還の闘いの現状は？ などが出された。ダイ改の要員問題は、「銚子区で要員増となるならば、行きたくもないのに、当局により、過員を理由に強制配転させられた仲間を戻すのが当然である」との意見が出され、全体で確認した。又、当局は乗務員がミスをすれば、即乗務停止にし、処分をし、ボーナスの五割カットをするという二重、三重にも処分するにもかかわら

ず、当局側のミスに関しては、明確にされておらず、調査活動を強化し、当局に対し、追及していく闘いの必要性が訴えられた。これらの質疑・意見に対し、本部中野委員長・支部執行部より答弁をうけた。

闘う方針を全会一致で確認

大会は質疑、答弁をうけたあと、本部大会方針をふまえ、

具体的闘いとして、
一、原職奪還の闘いは、裁判闘争、激励行動、署名、街宣、集会等に積極的に対応する。

*清算事業団激励行動は月一回以上の定例化を継続する。

二、「強制出向」は、ストライキも辞さずあらゆる闘いを駆使して粉砕する。

三、運転保安の闘いは、運転関係全般にわたり調査活動を強化し、要求、追及して行く。

四、物販運動は、現状より更に取り組みを強格し併せてカナメ商事、共同購入の会の取り組みも強化する。

以上のような取り組みを中心とした、闘う方針を全会一致で決定した。

最後に、支部長の団結ガンパロー三唱をもって十七時三〇分、大会は成功裡に終了した。



支部長	錦織芳
副支部長	西本泰
書記長	越川幸
執行委員	鈴木貴
	山本喜
	郡口一
	伊藤隆
特執	伊藤隆

支部執行体制

（1/25 銚子市・宮崎旅館）↑
* 錦織支部長の首領＜団結写真＞
ガンパロー三唱

強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！